

# まちの史跡めぐり

210

## 国会図書館所蔵資料の閲覧 (6)

町文化財専門委員  
石瀧 豊美

6月10日  
○鉱業事項 鉱業法二依り  
処分シタルモノ左ノ如シ(農商  
務省)  
(略)  
試掘不許可  
(出願地)福岡県糟屋郡宇美村、  
須恵村地内(鉱種)石灰(面  
積)五〇、七七八坪(出願人住  
所氏名)福岡県糟屋郡須恵村  
喜多崎民吉(処分ノ月日)五  
三〇(事由)本出願地ニ於ケ  
ル鉱業ハ公益ヲ害スルモノト  
認ムルニ付キ鉱業法第三十二  
条ニ依リ不許可  
●官報、1913年(大正2年)  
8月2日  
○鉱業事項 鉱業法二依り  
処分シタルモノ左ノ如シ(農商  
務省)  
(略)  
試掘許可  
(登録番号)福岡試登録第  
七百三三号(鉱種所在地)糟屋  
郡宇美村、須恵村地内(鉱種)  
石灰(面積)五〇、七七八坪  
(鉱業権者住所氏名)福岡県糟  
屋郡須恵村 喜多崎民吉(許

在る炭山。博多湾鉄道須恵  
駅鉱区の西端に在りて運輸  
便なり。明治四十一年、鉱区  
二六、七七八〇坪、使用鉱夫  
二一八人、女二〇〇人。産額五、  
四二四七七噸。価格二〇万二千  
円(本邦鉱業一斑)。  
ス工(須恵) 福岡筑前国糟  
屋郡の村。若杉山の西麓なる山  
村にして、須恵停車場あり。須  
恵焼といふ陶器を出す。藩政  
の頃は皿山奉行をして管理せ  
しめ、其製作品は主として藩の  
贈遣に供せり。主に青瓷・白瓷  
の磁碗を製す。人口四三〇四。  
新原炭山・植木炭山とも、使  
用鉱夫の他、女性労働者の数を  
上げているのが注目されます。  
男女同数でないのはもちろん  
ですが、炭鉱では男性に対する  
女性の比率が比較的高いこと  
が分かります。男性は鉱夫、女  
性は多くが選炭婦(ボタと石炭  
を選び分ける)であろうと思わ  
れます。「仏壇」はフランスの「ト  
」の意味で、メートル法の「ト  
」を指します。「贈遣」は贈与と  
同じような意味です。「須恵焼」

は陶器ではなく磁器で、「青瓷・  
白瓷」は青磁・白磁と同じです。  
「碟(せつ)」は皿・小皿のことを  
指します。  
『帝国地名辞典』下巻には糟  
屋郡須恵村関係の記事はあり  
ませんでした。  
●『日本電業者一覽』(日本電気  
協会、明治43年(1910年))  
「自家用電気事業」として挙  
げられているものです。今風  
に言い直すと、「自家発電」をし  
ている事業所ということにな  
るのでしょうか。海軍探炭所  
の新原第三坑、志免第五坑に発  
電装置がありました。「汽力」は、  
蒸気機関を使用して発電した  
ことを意味します。

●海軍探炭所第三坑  
所在 福岡県糟屋郡須恵村  
原動力 汽力  
発電容量 八十キロワット

●海軍探炭所第五坑  
所在 福岡県糟屋郡志免村大  
字志免  
原動力 汽力  
発電容量 八十キロワット

●官報、1912年(明治45年)

●官報、1913年(大正2年)

●官報、1914年(大正3年)

●『日本全国商工人名録』(商工  
社、1914年(大正3年))

海軍省経営稼行し、産炭は博多  
湾鉄道により西戸崎へ輸出す。  
四十一年、鉱区一七八、九〇七六  
坪、使用鉱夫一〇四五人、女工  
二七三人。産出額八、三三三六  
仏噸。価格三三万五千円。(本邦  
鉱業一斑)。  
『帝国地名辞典』上巻の内、  
「糟屋郡須恵村」でヒットしたの  
は新原・新原炭山の2つでした。  
そこで「須恵村」で再度検索し  
てみました。

ウエキータンザン(植木炭  
山) 筑前国粕屋郡須恵村に

シンバル(新原) 福岡筑前  
国糟屋郡須恵村に在る鉄道車  
駅。

海軍省経営稼行し、産炭は博多  
湾鉄道により西戸崎へ輸出す。  
四十一年、鉱区一七八、九〇七六  
坪、使用鉱夫一〇四五人、女工  
二七三人。産出額八、三三三六  
仏噸。価格三三万五千円。(本邦  
鉱業一斑)。  
『帝国地名辞典』上巻の内、  
「糟屋郡須恵村」でヒットしたの  
は新原・新原炭山の2つでした。  
そこで「須恵村」で再度検索し  
てみました。

ウエキータンザン(植木炭  
山) 筑前国粕屋郡須恵村に

シンバル(新原) 福岡筑前  
国糟屋郡須恵村に在る鉄道車  
駅。

海軍省経営稼行し、産炭は博多  
湾鉄道により西戸崎へ輸出す。  
四十一年、鉱区一七八、九〇七六  
坪、使用鉱夫一〇四五人、女工  
二七三人。産出額八、三三三六  
仏噸。価格三三万五千円。(本邦  
鉱業一斑)。  
『帝国地名辞典』上巻の内、  
「糟屋郡須恵村」でヒットしたの  
は新原・新原炭山の2つでした。  
そこで「須恵村」で再度検索し  
てみました。

ウエキータンザン(植木炭  
山) 筑前国粕屋郡須恵村に

シンバル(新原) 福岡筑前  
国糟屋郡須恵村に在る鉄道車  
駅。

海軍省経営稼行し、産炭は博多  
湾鉄道により西戸崎へ輸出す。  
四十一年、鉱区一七八、九〇七六  
坪、使用鉱夫一〇四五人、女工  
二七三人。産出額八、三三三六  
仏噸。価格三三万五千円。(本邦  
鉱業一斑)。  
『帝国地名辞典』上巻の内、  
「糟屋郡須恵村」でヒットしたの  
は新原・新原炭山の2つでした。  
そこで「須恵村」で再度検索し  
てみました。

ウエキータンザン(植木炭  
山) 筑前国粕屋郡須恵村に

シンバル(新原) 福岡筑前  
国糟屋郡須恵村に在る鉄道車  
駅。

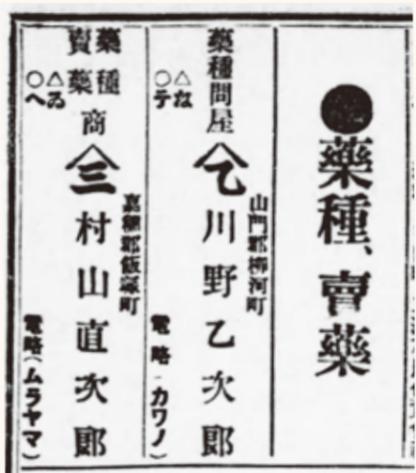
可及登録ノ月日(七、二四) (事  
由)試掘願許可

須恵村の人、喜多崎民吉は  
宇美村、須恵村にまたがる5万  
坪を鉱区に設定して試掘を願  
い出て、1912年には不許  
可、1913年には許可となり  
ましたが、いったん「公益ヲ害  
スル」とされたものがひっくり  
返った理由は分かりません。ま  
た、実際に試掘が行われたのか  
採掘にまで進んだのかも今の  
ところ不明です。

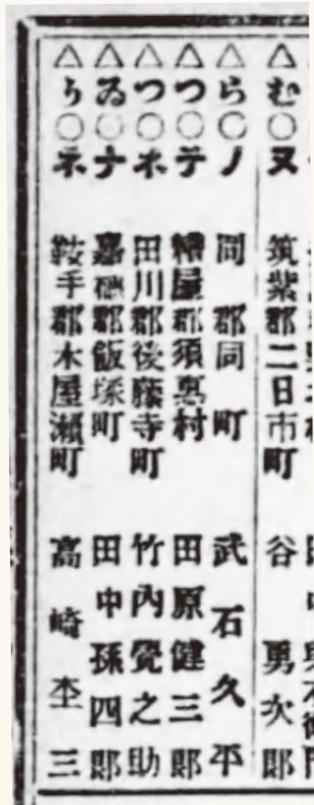
●『帝国交信寶』(帝国交信社、  
1913年(大正2年))

タイトルからは中身を判断  
しにくいのですが、商取引にお  
いて必要な、全国各地の商工業  
者の信用の度合いを知るため  
の参考書といったものよろ  
うです。

「葉種、売葉」に村山直次郎、  
「眞服、太物」に田原健三郎が  
上がっています。飯塚町の村  
山直次郎は須恵村出身の人で  
す。「国会図書館所蔵資料の閲  
覧」(一)「広報すえ」令和5年5月  
号)でふれています。



図版① 『帝国交信寶』より



図版② 『帝国交信寶』より

△ぬ〇へ 葉種・売葉商 嘉穂  
郡飯塚町 村山直次郎  
△つ〇テ 糟屋郡須恵村 田  
原健三郎

△は営業税、〇は所得税。△  
ぬは40円以上、〇へは5円以  
上。△つは100円以上、〇テ  
は100円以上です。

○『九州紳士録』第一輯、福岡県  
下之部(集報社、1914年(大  
正3年))

所得税、営業税、電話番号は省  
略しており、誤字は正していま  
す。また、須恵村外の居住でも  
須恵村の関係者は記載しまし  
た。糟屋・粕屋の混用は元のま  
まです。

吉松芳之助 粕屋郡々会議員  
粕屋郡須恵村  
田原養柏 医師 粕屋郡香椎  
村

田原貞次郎 粕屋郡須恵村長  
粕屋郡須恵村  
(商工人名録)  
今泉塚兵衛 荒物雑貨商 粕  
屋郡須恵村

※『日本全国商工人名録』の  
記事から「塚」は「塚」の間違いか  
と思われまます。

地園房吉 荒物雑貨商 糟屋  
郡須恵村  
※『日本全国商工人名録』の  
記事から「地」は「池」の間違いか  
と思われまます。

瀧口純一 粕屋郡須恵尋常高  
等小学校長 粕屋郡須恵村  
内田盈(みつる) 請負業 粕  
屋郡須恵村

安河内藤吉 酒造業 粕屋郡  
須恵村  
今泉七兵衛 醤油醸造業 粕  
屋郡須恵村須恵

●『日本全国商工人名録』(商工  
社、1914年(大正3年))

営業税、所得税の記載は省略し  
ました。  
(米、雑品商)  
池園広吉 糟屋郡須恵村  
(酒造業)  
今泉塚兵衛 糟屋郡須恵村  
安河内藤太 糟屋郡須恵村

(醤油醸造業)  
今泉七兵衛 糟屋郡須恵村